

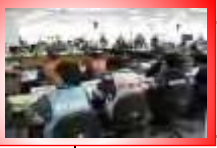






10 訓練イベント時刻

<第1日目 2/5 (月)>

| 場所 | 官邸・ERC (本訓練では内閣府) | OFC (北海道原子力防災センター) | 道災対本部 (道庁) | 町村災対本部 (13町村) |
|-------|--------------------------|--|---|---|
| 実施内容等 | ○原子力災害合同対策協議会全体会議 (TV会議) | ○現地事故対策連絡会議 ○原子力災害合同対策協議会全体会議 (TV会議) ○各機能班活動 | ○災害対策本部員会議 ○原子力災害合同対策協議会全体会議 (TV会議) ○指揮室運営 (9:00~15:30) | ○災害対策本部員会議 ○原子力災害合同対策協議会全体会議 (TV会議) 等 |
| 9:00 | | | 9:00~9:15 道災害対策本部員会議 知事 | 9:00~9:15 町村災害対策本部員会議 |
| 9:30 | | 9:30~9:50 現地事故対策連絡会議 副知事 副町村長ほか |  | |
| 10:00 | | | | |
| 10:30 | 10:30 緊急事態宣言 | | | |
| 10:30 | 内閣府 (TV会議) | 副知事 副町村長ほか | 10:30~10:50 第1回原子力災害合同対策協議会全体会議 知事 (TV会議) | 13町村長 (TV会議) |
| 11:00 | | | 10:50~11:00 道災害対策本部員会議 知事 | 10:50~11:00 町村災害対策本部員会議 |
| 11:30 | | 11:40~12:00 第2回原子力災害合同対策協議会全体会議 副知事 副町村長ほか | |  |
| 12:00 | | | | |
| 12:30 | 24時間経過を想定 | | | |
| 13:00 | | | | |
| 13:30 | | 副知事 副町村長ほか | 13:20~13:40 第3回原子力災害合同対策協議 知事 (TV会議) | 13町村長 (TV会議) |
| 14:00 | | | 13:40~13:50 道災害対策本部員会議 知事 | 13:40~13:50 町村災害対策本部員会議 |
| 14:30 | | |  | |
| 15:00 | | 15:10~15:30 第4回原子力災害合同対策協議会全体会議 副知事 副町村長ほか | | |
| 15:30 | 1日目訓練終了 | | | |

<第2日目 2/8 (木)>

| 実施内容等 | 実動訓練 | | | | | |
|-------|---|--|----------------------------------|--|---|---|
| 9:00 | PAZ住民避難・道路除雪 | 共和町下梨野舞納 住民配布:9:00頃 | | | | |
| 9:30 | 泊村公民館 バス出発:9:00頃 | 安定ヨウ素剤戸別配布 | | バス中継ポイント | 大雪による 孤立住民救出 | |
| 10:00 | 泊村養護老人ホーム むつみ荘 施設到着:10:15頃  | 北電体育館 バス出発:9:50頃  | 外国人観光客等 避難誘導 | 寿都温泉ゆべつのゆ バス中継:9:00頃 トラック中継:10:00頃 | 蘭越地区 ふれあいセンター 住民救出:9:20頃  | 地震による家屋倒壊時の 屋内退避等 蘭越町民センター 地震による避難:9:30頃 バス出発:10:20頃 |
| 10:30 | 要配慮者屋内退避 | 要配慮者屋内退避 | ホテルグリーン パークいわない 9:30~9:45頃 | トラック中継ポイント | | |
| 11:00 | 傷病者搬送・医療措置  | 共和町 保健福祉センター 施設到着:10:15頃  | 駐車場兼ヘリポート除雪 オフサイトセンター | 避難退域時検査  | | 避難退域時検査  |
| 11:30 | 北海道大学病院 傷病者受入:11:00頃 | | | 寿都温泉ゆべつのゆ 10:30~11:40頃 | | |
| 12:00 | | | | | | 倶知安中央公園 10:30~13:00頃 |
| 12:30 | | | | | | |
| 13:00 | | | | | | |
| 13:30 | | | | | | |
| 14:00 | | | | | | |
| 14:30 | | | | | | |
| 15:00 | 2日目訓練終了 | | | | | |

11 住民避難訓練整理表

| 避難元町村 | 輸送手段等 | 避難退域時検査 | 一時滞在所 | 避難先 |
|--|--|-------------------|--|--|
| <p>泊村(PAZ)</p> <p>むつみ荘</p> <p>在宅要配慮者の放射線防護対策施設への屋内退避(1名)</p> | <p><在宅要配慮者> 照岸地区 2人 借バス小型1台 ※バス集合場所巡回</p> <p><住民> 堀林地区等 7人 借バス中型1台、小型1台</p> <p><学校等> 130人 ①泊小学校(94人(児80人・教14人) 村バス3台 ②泊中学校(36人(児28人・教8人) 借バス大型1台</p> <p><社会福祉施設>むつみ荘10人 借バス小型1台、福祉車両2台</p> | | 南区体育館 (札幌市南区) | <p>アパホテル (札幌市南区)</p> <p>黒松内つくし園 (黒松内町)</p> |
| <p>共和町(PAZ)</p> <p>保健福祉センター</p> <p>在宅要配慮者の放射線防護対策施設への屋内退避(1名)</p> | <p><在宅要配慮者> 宮丘地区 4人 借バス大型1台 ※バス集合場所巡回</p> <p><住民> 北電社宅会 26人 町バス1台 ※バス集合場所巡回</p> <p><学校等> 36人 はまなす幼児センター(児31人・職5人) 町バス1台</p> | | <p>ルスツリゾート【想定】 ※共和町役場で折り返し</p> <p>ルスツリゾート (留寿都村)</p> | |
| <p>岩内町(UPZ)</p> | <p><住民> 岩内市街地区等 74人 借バス大型2台</p> <p><要配慮者施設> 28人 ①あけぼの学園 20名 借大型バス 1台 ②コミュニティホーム岩内 4名 福祉車両 1台 ③グループホームそよかぜ 4名 福祉車両 1台</p> | 倶知安中央公園 (倶知安町) | <p>きたえる (札幌市豊平区)</p> | <p>札幌市内ホテル 【想定】</p> <p>避難先施設 (伊達市)</p> |
| <p>寿都町(UPZ)</p> | <p><住民> 横洞地区等 29人 借バス中型3台、自家用車(見立)2台</p> <p><社会福祉施設> 40人 ①歌棄慈光園 22名 町バス 1台 ②寿都浄思学園 14名 町バス 1台 ③寿都しおさい学園 4名 福祉車両 1台</p> | ゆべつのゆ (寿都町) | <p>北区体育館 (札幌市北区) 【想定】</p> | <p>札幌市内ホテル 【想定】</p> <p>避難先施設 【想定】</p> |
| <p>蘭越町(UPZ)</p> <p>町民センター</p> <p>地震により自宅等が倒壊した場合を想定した公共施設での屋内退避(10名)</p> | <p><住民> 蘭越地区 23人 借バス大型1台 自家用車(見立)1台</p> | 倶知安中央公園 (倶知安町) | <p>札幌コンベンションセンター (札幌市白石区) 【想定】</p> | 札幌市内ホテル 【想定】 |

※この他、泊村、岩内町、蘭越町にて大雪で孤立した住宅からの要配慮者の救助訓練を実施。
また、泊村、倶知安町、仁木町、古平町では、訓練想定とは別に独自に住民避難訓練を実施。

12 訓練実施場所図



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図(タイル)を複製したものである。(承認番号 平 29 情復、第 943 号) 承認を得て作成した複製品を第三者がさらに複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければなりません。

【第1日目 2月5日】

① オフサイトセンター (共和町南幌似 141-1)

緊急事態応急対策拠点施設運営訓練

【第2日目 2月8日】

① オフサイトセンター (共和町南幌似 141-1)

OFC 駐車場兼ヘリポート除雪訓練

② 泊村公民館 (泊村大字茅沼村 172-7)

住民避難訓練・除雪訓練

③ 泊村養護老人ホームむつみ荘 (泊村大字茅沼村 711-3)

要配慮者避難訓練・要配慮者屋内退避訓練

④ 共和町ほくでん体育館 (共和町宮丘 184-34)

住民避難訓練・除雪訓練

⑤ 共和町下梨野舞納地区 (共和町梨野舞納)

安定ヨウ素剤の緊急戸別配布訓練

⑥ 共和町保健福祉センター (共和町南幌似 57-12)

要配慮者屋内退避訓練

⑦ 共和町国富交差点 (共和町国富)

道路渋滞対策訓練

⑧ ホテルグリーンパークいわない (岩内町字野束 500)

外国人観光客等避難誘導訓練

⑨ 蘭越町民センターらぶちゃんホール (蘭越町蘭越町 43-1)

地震による家屋倒壊時の屋内退避訓練

⑩ 蘭越地区ふれあいセンター (蘭越町蘭越町 854 番地 3)

大雪孤立住民避難訓練

⑪ 寿都温泉ゆべつのゆ (寿都町字湯別町下湯別 462)

避難施設時検査

⑫ 寿都町農村活性化センター (寿都町字湯別町下湯別 461-1)

バス等中継ポイント運営訓練

⑬ 倶知安中央公園 (倶知安町南 3 条東 4 丁目)

避難施設時検査

⑭ 倶知安町世代交流センター (倶知安町南 3 条東 4 丁目)

避難施設時検査・安定ヨウ素剤配布訓練

⑮ 倶知安町国道 276 号周辺 (倶知安町北 4 条付近)

道路渋滞対策訓練

⑯ 北海道大学病院 (札幌市北区北 14 条西 5 丁目)

被ばく傷病者受入訓練

13 事前準備・結果報告等

(1) 会議等

地元自治体や防災関係機関、道庁内各部との会議等を開催し、訓練計画・項目・内容などについて、協議・調整を行うとともに、実施結果について報告を行った。

| 開催年月日 | 会議名等 |
|-------------------|--|
| 平成 29 年 4 月 27 日 | 原子力防災事務担当者会議（後志管内 13 町村等） |
| 平成 29 年 5 月 12 日 | 防災・減災対策推進本部原子力部会（道庁内各部等） |
| 平成 29 年 5 月 19 日 | 北海道防災会議幹事会 |
| 平成 29 年 5 月 30 日 | 北海道防災会議 |
| 平成 29 年 6 月 12 日 | 原子力防災に関する連絡会議（石狩・後志・胆振・渡島管内関係市町村） |
| 平成 29 年 8 月 22 日 | 泊地域原子力防災協議会作業部会（国、後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議 |
| 平成 29 年 10 月 12 日 | 泊地域原子力防災協議会作業部会（国、後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議 |
| 平成 29 年 10 月 18 日 | 防災・減災対策推進本部原子力部会（道庁内各部等） |
| 平成 29 年 11 月 10 日 | 原子力防災訓練事務担当者会議（後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議 |
| 平成 29 年 12 月 8 日 | 泊地域原子力防災協議会作業部会（国、後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議 |
| 平成 29 年 12 月 18 日 | 北海道防災会議常任幹事会 |
| 平成 29 年 12 月 25 日 | 原子力防災訓練事務担当者会議（後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議 |
| 平成 29 年 12 月 26 日 | 原子力防災に関する連絡会議（石狩・後志・胆振・渡島管内関係市町村） |
| 平成 30 年 1 月 24 日 | 原子力防災訓練事務担当者会議（後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議 |
| 平成 30 年 3 月 26 日 | 泊地域原子力防災協議会作業部会（国、後志管内 13 町村、防災関係機関）※TV 会議 |

(2) 北海道防災会議原子力防災対策部会専門委員会

北海道防災会議原子力防災対策部会専門委員から訓練内容について専門的見地からの意見を伺うとともに、実施結果について専門委員（学識経験者）に対する報告を行った。

- ・平成 29 年 10 月 30 日 専門委員（学識経験者）との意見交換
- ・平成 30 年 2 月 5・8 日 専門委員（学識経験者）による訓練視察
- ・平成 30 年 4 月 12 日 有識者専門委員会

(3) 住民等への周知

訓練の実施について、道及び関係 13 町村のホームページや広報誌に掲載するとともに、「原子力防災だより」を関係 13 町村全戸や各町村内の主要施設に配布するなど、住民への周知を行った。

また、原発を立地している他県や道内関係市町村に対し、周知を行った。

(4) その他

- ・平成 30 年 1 月 10 日 北海道議会総務委員会へ訓練実施について報告
- ・平成 30 年 1 月 30 日 報道機関へ訓練の実施について事前レクチャー
- ・平成 30 年 2 月 8 日 北海道議会総務委員会による訓練視察
- ・平成 30 年 2 月 8 日 報道機関へ訓練の実施結果について事後レクチャー
- ・平成 30 年 2 月 20 日 北海道議会総務委員会へ訓練実施結果について報告

第2 課題等整理表（関係機関等事後調査結果）

（1）訓練全般に関すること

| 課題・指摘 | 対応（方向性） |
|--|--|
| 意思決定訓練と実動訓練が別日程での開催でそれぞれの流れを理解することができた。一方、一連の流れを理解するためには、同日開催も必要と感じた。 | 今後とも OFC 等の運営能力の向上に努めていく。 |
| 国やOFCでの諸会議を経て住民広報に至るまで多くの時間を要する。一方、原子力防災は住民の防護措置に対してマスメディアから報道・周知されるため、このタイムラグが大きいほど、住民などからの問合せが増加し、本来の活動に遅れが生じる可能性があるため、再度、広報のあり方や効率化について検討が必要。 | 今年度の訓練においては、暴風雪が収まるのを待ち、安全が確保されたのを確認してから避難行動を行ったため、「緊急事態宣言」後すぐに避難行動を指示する流れではなかったが、原子力災害対策指針において、「緊急事態宣言」に伴う住民の防護措置の基本的内容は決まっていることから、迅速に住民広報が行えるよう、会議の持ち方も含め、必要な手順の効率化に努めていく。 |

（2）災害対策本部等設置運営訓練に関すること

| 課題・指摘 | 対応（方向性） |
|---|---|
| 意思決定訓練と実動訓練に分け、2日間日程で実施されたが、従来のように2つの訓練が同時進行した方が、プレーヤーとしてはわかりやすい。 | 意思決定と実動を連動させる訓練も重要と考えており、関係機関と協議し、検討していく。 |
| 北海道電力からの状況説明のように、道災害対策本部からも状況の説明等があればエゾン派遣者も状況把握しやすかったのではないか。 | 指摘を踏まえ、より実効的な訓練になるよう、対応していく。 |
| 複合災害を想定した場合、後志以外の振興局とも情報共有を行うべきであるため、全振興局が参加できるTV会議等が必要ではないか。 | 指摘を踏まえ、振興局も含めた情報共有について、検討していく。 |

（3）OFC運営訓練に関すること

| 課題・指摘 | 対応（方向性） |
|---|---|
| 想定事項について、コントローラからの付与と町村からのFAXなどの通報があったため、どちらの情報も正しいか混乱が生じた。 | 意思決定訓練における情報の整理について、関係機関と協議し、検討していく。 |
| コントローラの対応が原因で、情報の内容に食い違いが生じた部分があった。 | 事前にコントローラ間で対応要領を整理するなど、今後の訓練計画に反映する。 |
| ブラインド訓練のため図上演習を受けていない職員はスムーズに業務をこなせなかった。 | 講習会や訓練を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。 |
| ブラインド訓練をOFC内だけでなく、各町村も加えた方が、よい訓練になるのではないか。 | 防災関係機関で行う意思決定訓練などにおいて、ブラインド性を向上できるように、関係機関と協議し、訓練内容を検討していく。 |
| 昨年度の訓練に比べ、資料の作成や要員の対応がレベルアップしていると感じた。しかし、会議での発言は、要点を踏まえ簡潔にした方が良いと感じた。 | 指摘を踏まえ、適切に対応する。 |

| 課題・指摘 | 対応（方向性） |
|---|---|
| 今回、会議資料、議事録等の紙資料の配布については、全体会議室及び各機能班には直接配布、防災関係機関（警察、海保、陸自等）には、メールボックスから受領するようにしたが、メールボックスからの受領状況が思わしくなかった。 | 原子力防災システムの活用など、意思決定訓練における情報の整理について、関係機関と協議し、検討していく。 |
| 会議資料の格納フォルダなど資料保存場所について周知が不足している部分があった。 | 有事の際にも混乱がないよう保存フォルダをあらかじめ決めておくなど、情報の整理について、関係機関と協議し、検討していく。 |
| OFC のモニターで情報共有を図っているのは良いが、情報量が多すぎ、一覧性に欠けた。 | 指摘を踏まえ、適切に対応する。 |
| 自然災害との複合災害においては、自然災害の対策本部との連携が必須であり、引き続き、訓練等による連携の意識付けが必要。 | 指摘を踏まえ、適切に対応する。 |
| 大規模地震で今回の被害想定を考慮すると北海道広域消防相互応援協定に伴う出動、緊急消防援助隊の要請・出動が必須となるがそのこと自体を訓練コントローラ側では理解していなかった。 | 意思決定訓練における情報の整理やコントローラの配置等について、関係機関と協議し、検討していく。 |
| 気象台のブースについて、訓練開始後に関係自治体のブースに入ってもらったが、事前にブースを定めておく必要があった。 | 気象台ブースの配置について、関係機関と協議し、検討していく。 |
| 総括班、プラント班、放射線班の要員について、初動対応や交代要員等を考慮すると、増員が必要ではないか。 | 今後、関係機関と協議し、検討していく。 |
| 現在、住民安全班に配置されている道警からの要員について、迅速な実動対応の観点から、実動対処班に配置換えしてほしい。 | 今後、関係機関と協議し、検討していく。 |
| 手が空いているのに活動を行っていない等、問題意識や危機意識が薄い訓練参加者がいた。 | 意思決定訓練において状況付与を充実させるなど、より実効的な訓練になるよう、検討していく。 |
| 各町村から要員が派遣される住民安全班の人数が多く、手を余す人もいた。すべての要員が仕事内容を把握できるよう工夫が必要。 | より実効的な訓練になるよう、意思決定訓練における状況付与等の充実について検討していく。 |
| OFC スキャナデータを機能班だけでなく、消防ブース PC にもデータ転送できるようにしてほしい。 | 原子力防災システムの活用等により、PC によるデータの取得ができるよう国と調整する。 |
| 各種機器の操作説明等について、事前に行って欲しい。訓練時に混乱が生じてしまう。 | 講習会や訓練を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。 |
| OFC（運営支援班）の複合機を使用し関係町村等へコントローラからの情報付与の F A X をしたが、相手先で受信するまでに 1 時間以上かかることが多々あった。また、岩内町については、送信できなかった。 | 指摘を踏まえ、訓練前に試験送信を行うなど、適切に対応する。 また、送信ができない場合は一般 FAX を使用するなど、要員・コントローラの対応を検討する。 |
| 配置図にコピー機の位置が示されていないかった。FAX 専用に使うものとコピー機として使用するものの機器の配置は記載があった方が良い。 | 指摘を踏まえ、適切に対応する。 |
| 機能班長や情報管理者の腕章が準備されていないかった。機能班活動をスムーズに行うにあたり、腕章の着用は重要なので、事前の準備が必要。 | 指摘を踏まえ、適切に対応する。 |
| 放射性物質の放出を想定した訓練にもかかわらず、運営支援班が放射線防護装置の運用について承知していなかった。 | より実効的な訓練になるよう、意思決定訓練における状況付与等の充実について検討していく。 |

| 課題・指摘 | 対応（方向性） |
|---|--|
| 昨年度の訓練から導入された、次の事態に備えた「実施方針（案）」について、確認のみではなく、実際に各町村と協議したうえで作成したほうが良いのではないか。 | より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。 |
| OIL2の一時移転について、避難対象エリアや人口、手配されたバスの台数等を考慮した一時移転を検討するべきではないか。 | 1週間以内という時間を考慮した一時移転の計画を検討するなど、今後の訓練等において対応を検討する。 |
| 実態に沿った形で、参集行動から訓練すれば、移動経路の設定や移手段の確保を含めた要員の訓練になるのではないか。 | 指摘を踏まえ、より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、対応していく。 |
| 加熱式の保存食は準備に時間が掛かり、支障をきたすため、別の昼食のほうが良い。 | 関係機関と協議し、訓練における昼食の摂りかたについて検討する。 |

（４）緊急時通信連絡訓練に関すること

| 課題・指摘 | 対応（方向性） |
|---|---|
| 防災FAXが、何度かエラーにより指示文などが届かない時があった。一般FAXも活用して臨機応変に対応する必要がある。 | 指摘を踏まえ、訓練前に試験送信を行うなど、適切に対応する。また、送信ができない場合は一般FAXを使用するなど、要員・コントローラの対応を検討する。 |
| OFCからの通報FAXが、役場代表FAX（NTTFAX）に送付されたので、整理が必要。 | 指摘を踏まえ、訓練前に試験送信を行うなど、適切に対応する。 |
| 役場において情報活動システムでの添付ファイルが開けなかった。（訓練前日の試験では開けた） | 意思決定訓練における情報伝達手段について、関係機関と協議し、検討していく。 |

（５）緊急時環境放射線モニタリング訓練に関すること

| 課題・指摘 | 対応（方向性） |
|---|--|
| 風向・風速といった気象情報は、モニタリング計画の策定や見直しには少なくとも数時間後の予報が必要と考えられるが、今回の訓練では正時毎の実況が提供されるだけであった。 | より実効的な訓練になるよう、意思決定訓練における状況付与等の充実について検討していく。 |
| スキップ中の活動内容については、事故の進展とあわせてしっかりとした想定を行う必要があったが、緊急時モニタリングでは不明確であった。 | スキップ間における緊急時モニタリング活動の内容について、泊規制事務所上席放射線防災専門官と協議し、検討していく。 |
| 汚染検査機器の使用方法が分からない点があったので、復習・改善が必要。 | 講習会や訓練を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。 |
| 大雪等で設置した資機材の場所がわからなくなることが予想されたため、設置時に写真を撮っておくなどの対応が必要。 | 各測定採取班にはデジカメが貸与されている。必要に応じて写真を撮影するよう指示することとし、講習会や訓練を通じて徹底する。 |
| 共有すべき事項がうまく共有されておらず、班内で認識が異なっていたことがあった。情報共有の難しさが分かった。 | 講習会や訓練を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。 |
| 実動訓練は、暴風雪が収まった後のモニタリングを想定していたので、気象や道路状況について、モニタリング情報共有で周知する場面があると良かった。 | 講習会や訓練を通じて、各要員の対応力の向上に努めていく。 |

(6) 広報訓練に関すること

| 課題・指摘 | 対応(方向性) |
|--|--|
| 緊急速報メール・エリアメールについては、当初から送信しないことで調整していた地域についても、携帯電話の基地局の位置関係により、一部の一般住民や外国人観光客等が受信してしまい、道や関係町村へ問い合わせがあった。 | 緊急速報メールに関する諸問題については、基地局がカバーするエリアなど行政だけでは解決が難しい問題があるが、今後も継続して取り組んでいく。また、エリアメールの送信については、訓練では道が一括して行っているが、各町村から送信することを含め、関係機関で協議し、検討していく。 |

(7) 住民避難訓練に関すること

| 課題・指摘 | 対応(方向性) |
|--|--|
| 事前に防災教育を行ってから、訓練を実施するとより効果的ではないか。 | 広域避難訓練とは別に、防災学習会の実施等について、検討していく。 |
| バス移動の際に、DVDの視聴や防災に関するクイズ等を行うとより効果的ではないか。 | バスでの移動中に研修の要素を盛り込むなど、参加者にとっても実効的な訓練になるよう、検討していく。 |
| 屋内退避をしたあとの行動について説明があるとさらに良かった。 | 屋内退避から避難や一時移転を行うまでの詳細を説明するなど、参加者にとっても実効的な訓練になるよう、検討していく。 |
| 今回初めて冬季における避難先(札幌市)への住民避難訓練を実施したが、天候や路面状況などによる移動時間を考えた場合、今後は冬季の中山峠廻りの避難経路についての検討が必要。 | 泊地域の緊急時対応等において、複数の避難経路を整理しており、天候状況等に応じて臨機応変に対応するよう努めていく。 |
| 原子力災害が深刻度を増したときに、どこまで道路管理者が道路の除雪を担うのか、津波等で発生したがれき等の啓開はどうするのかなど不明な部分が多い中での訓練となっているのではないか。 | 原子力災害時の道路啓開や除雪については、1ミリシーベルトを上限として、民間事業者に協力いただくことを基本としており、その旨、民間事業者を所管する関係省庁にも、内閣府から協力を依頼している。 |
| 渋滞対策訓練でルートとなった避難退域時検査場所から478号線は、冬季の天候が悪い場合(暴風雪など)には、2次災害の危険性もあるのではないか。 | 暴風雪時には、2次災害を回避するため、屋内退避を優先し、天候回復後に避難を行うこととしている。 |
| 交通整理の要員の服装が白の防護服であり、暴風雪時には視認し難く危険だと感じた。 | 冬季の防護服の着用については、上からビブスを着用するなど、要員の安全を確保できるよう検討していく。 |
| 外国人観光客の避難誘導について、外国人、ホテルスタッフ等の振り返りを次回に活かしてより現実的な訓練が継続されることが大切。 | 外国人観光客の避難誘導方法については、今後も訓練等を通じて改善に努めていく。 |
| 翻訳アプリを使用した外国人観光客避難誘導は有効であり、今後は宿泊施設や観光施設等で活用できるようさらなる周知が必要。 | 宿泊施設等向けの「初動対応マニュアル」を作成し、参考例として掲載するなど、外国人の避難誘導方法について、周知していく。 |
| 外国人観光客の避難誘導について、アナウンスされた外国語の文章に違和感があった。必要最低限の例文等は事前に施設に配布しておく方が良いのではないか。 | 宿泊施設等向けの「初動対応マニュアル」を作成し、例文を掲載するなど、外国人の避難誘導方法について、周知していく。 |
| 自家用車を利用する外国人観光客に対する適切な助言方法(避難すべき方向やルートなど)の検討が必要ではないか。 | 指摘を踏まえ、関係機関と協議し、検討していく。 |

| 課題・指摘 | 対応（方向性） |
|---|---|
| 本訓練においてヘリによる住民避難は悪天候のため中止となったが、このような事態は実際に想定される場面であり、特に冬季のように天候の安定しない時期については代替手段の確保が必要。 | ヘリの飛行が困難な場合など様々な状況を想定し、臨機応変に対応できるよう、検討していく。 |
| 放射線防護施設におけるグリーンハウス設営について、冬期間は風除室内・玄関が結露・凍結によりテープが付きにくい場合があることが分かった。 | 指摘を踏まえ、関係機関と協議し、対応を検討していく。 |
| 放射線防護施設における出入管理について、一部汚染検査に至るまでの経路に養生されていない部分があった。また、平素から置かれているパンフレット架台等がそのままになっていた。 | 指摘を踏まえ、適切に対応する。 |

（８）原子力災害医療活動訓練に関すること

| 課題・指摘 | 対応（方向性） |
|---|---|
| 安定ヨウ素剤（疑似）の配布訓練は、避難（一時移転）する社会福祉施設等の訓練参加住民に対しても実施してほしい。 | 指摘を踏まえ、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。 |
| 安定ヨウ素剤緊急配布訓練において、道において準備された住民に配布する「問診票」及び「説明書」などが旧様式であった。 | 事前に使用する資料を確認・共有するなど、適切に対応する。 |
| チェックシートについて、一般の人が見て分かりやすい文言にした方が良い。製剤名など記入困難なものがある。薬手帳など服用している薬剤名が分からない人には提示してもらったら良いと思う。 | 医師や薬剤師など専門知識を有する方々と相談しながら、対応方法について今後検討する。 |
| 自身では判断できない要配慮者の問診票への回答方法について検討が必要。 | 指摘を踏まえ、対応を検討する。 |
| 参加者の年齢が 13 歳以上だった為、ヨウ素剤の形状等を説明する機会がなかった。 | 関係機関と協議しながら、今後の訓練計画を検討する。 |
| 避難退域時検査において、車両検査実施後の住民検査での現場の指示が少なかったため、どこへ行けば良いのかわからず、検査が円滑に行われなかった。 | 指摘を踏まえ、適切に対応する。 |
| 避難退域時検査の検査員の服装（ゴーグルやシューズカバー等）は統一されている方が良いのではないかと。 | 指摘を踏まえ、事前に検査員の服装を確認・共有するなど、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。 |
| 車両除染場所に簡易天幕が設置されたが、除染車両が収容できない規格であり、設置の目的が曖昧であるとともに効果について疑問があった。 | 簡易天幕の設置により、汚染水の散逸防止など一定の効果は得られたが、今後は、関係機関と協議し、設置場所や天候等の状況に応じた除染方法などを検討していく。 |
| 除染後の汚染水の回収を手作業で行っていたのが非効率と感じた。 | 発災時には、検査場に穴を掘り貯水場所を確保する等の措置を想定しているが、訓練では想定としている。 |
| 避難退域時検査における確認検査において、判定基準を超過した以外の部分も含め丁寧に実施していたため、検査待ちの後続車両の渋滞が見受けられた。 | 指摘を踏まえ、今後、関係機関と協議し、検討していく。 |
| ゲート型モニタによる指定箇所検査にあたり、ケープルカバーが滑り、ずれる事象が発生した。 | 滑り止めマットの敷設や砕氷除雪を行った上で雪や土で段差を小さくするなど、関係機関と協議し、検討していく。 |

| 課題・指摘 | 対応（方向性） |
|--|--|
| 車両検査について、降雪時の紙媒体での記録、保管は困難。 | 指摘を踏まえ、今後、関係機関と協議し、検討していく。 |
| 避難退域時検査で車両が右側通行となるのは、危険ではないか。 | 指摘を踏まえ、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。 |
| 大型バスは検査面積が大きく検査に時間がかかることがわかった(1台あたり10分程度はかかる)。大型バスについては車両全体を4名体制で検査できれば良いと思われる。 | 指摘を踏まえ、今後、関係機関と協議し、検討していく。 |
| 確認検査の記録員は一人で許可証を準備し、記載するという作業が大変。バスのように許可証の枚数が多くなると一人で裁くのは厳しいと感じた。やり方の工夫または増員が必要と考える。 | 指摘を踏まえ、今後、関係機関と協議し、検討していく。 |
| 降雪が激しい時 車両誘導員が目立たなくなってしまうためゼッケン等が必要。 | 冬季の防護服の着用については、上からビブスを着用するなど、要員の安全を確保できるよう検討していく。 |
| 住民検査の際、汚染が確認された住民と汚染が確認されなかった住民が交差してしまう動線となっていた。 | 指摘を踏まえ、対応を検討する。 |
| 確認検査のブースで住民を待たせてしまうことが多かったので、ブースを増やした方がスムーズだと思うが、技師や器具の確保が課題。また、住民が待っている間のイス等がなかったので、イス等を準備するなどの対応が必要。 | 指摘を踏まえ、対応を検討する。 |
| ほとんどの住民は手荷物（貴重品等）をもって検査を受けると想定されるので、それを想定した準備が必要。 | 避難退域時検査において、基準値を超えるような汚染が確認された住民に対しては、手荷物の検査を行うこととしており、今後の訓練等において、対応を検討する。 |
| 検査場所での情報共有が出来ていないので、ホワイトボード等を使用した情報共有、本部の設置、車輛検査場所との連絡体制強化が必要だと感じた。 | 指摘を踏まえ、今後、関係機関と協議し、検討していく。 |
| 傷病者搬送訓練について、訓練でヘリが中止になった際の代替手段（北大病院での受入訓練のみ実施し、搬送等については想定）が公にあまり周知されていなかった。また、代替手段については、想定ではなく実施したほうが良かったのではないか。 | ヘリの飛行が困難な場合など様々な状況を想定し、臨機応変に対応できるよう、検討していく。 |
| 汚染区域等で使用する資機材の準備が悪く、傷病者の受入を行うまでにかかなり時間を要したため、スケジュールどおりに行うことが出来なかった。 | 事前に使用する資機材を確認するなど、適切に対応する。 |
| 院内の養生やスタッフの防護服の装着、個人線量計の管理など、全てにおいて北海道電力が主体となって管理するよりも、各拠点病院の診療放射線技師等に技術を落とし込んだ方が良い。 | 指摘を踏まえ、今後、関係機関と協議し、検討していく。 |
| 傷病者について、原発職員だけではなく、周辺住民も加えることを検討していくべきではないか。 | 指摘を踏まえ、今後、関係機関と協議し、検討していく。 |
| 多くの道庁関係者や他拠点病院等が訓練に参加・見学できるよう避難退域時検査の訓練とは別の日に医療訓練を行うことを検討してはどうか。 | 指摘を踏まえ、研修会の充実について、今後、関係機関と協議し、検討していく。 |
| これまでの北海道における訓練と弘前大学の訓練方法が異なっていたため若干混乱が生じた。 | 指摘を踏まえ、関係機関と協議し、今後の訓練等において対応を検討する。 |

(9) その他訓練に関すること

| 課題・指摘 | 対応(方向性) |
|---|---|
| トラックの輸送路線について、道路幅等から無理があった。冬期であり天候が悪いことを想定して、トラックが輸送できる路線は2本以上の選定が必要。 | 訓練における輸送路線の選定に当たっては、トラック協会等関係機関と調整し、検討する。 |
| 視察者がネームプレートを下げて勝手に施設内に入り、ビデオカメラで訓練の様子を撮影していた。事前に連絡等もなく当日も挨拶なく建物内に入り勝手に撮影していたため、敷地内から出ていただいたが、今後も有り得るので、訓練視察者への注意喚起や訓練参加機関への情報共有が必要。 | 道のホームページやリーフレットに訓練視察に関する注意事項を記載するなど、視察者に対する注意事項の周知を徹底するとともに、訓練参加機関への情報共有に努める。 |

◆平成30年度訓練に向けた検討項目◆

- 意思決定訓練（OFC、災害対策本部など）の充実
 - ・意思決定と実動を連動させることによる要員の対応力の向上
 - ・ブラインド方式による機能班の対応手順の確認
 - ・よりの確な状況付与による意思決定訓練の充実

- EAL、OILに基づく防護措置に係る訓練の充実
 - ・自然災害との複合災害を想定した住民・要配慮者の避難訓練の継続
 - ・ヘリの飛行が困難な場合などを想定した対応力の向上（代替措置の確保）
 - ・表示板等を活用した外国人等の観光客の円滑な避難誘導
 - ・OIL2を想定した一時移転計画の検討
 - ・避難計画に対する住民理解の促進に向けた取組の強化

- 原子力災害医療活動訓練の充実
 - ・避難退域時検査場所の円滑な運営
 - ・安定ヨウ素剤の速やかな配布
 - ・医療機関の連携強化

第3 要素訓練

1 通信連絡訓練

(1) 目的

原子力災害時の初期対応における通信連絡手順や応急活動を確認し、道及び関係町村担当者の対応能力の向上を図る。

(2) 内容

北海道地域防災計画（原子力防災計画編）等に基づき整備した通信連絡設備等を使用し、通信連絡に必要な機器の取扱いや情報の伝達手順などを確認。

(3) 参加機関 … <20>

泊原子力規制事務所、北海道、泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、二セコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村、岩内・寿都地方消防組合、羊蹄山ろく消防組合、北後志消防組合、北海道警察、北海道電力(株)

(4) 実施日 (11回)

平成29年4月13日、5月11日、6月8日、7月14日、8月3日、9月14日、10月12日、11月9日、12月14日、平成30年1月17日、3月8日

※平成29年8月3日は、札幌市、小樽市、島牧村、黒松内町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、洞爺湖町、豊浦町、長万部町、千歳市、伊達市、室蘭市、苫小牧市、登別市、壮瞥町、白老町、北広島市、江別市、むかわ町、安平町、厚真町も参加。

※平成29年8月3日は、要員派遣訓練（オフサイトセンター参集訓練）を実施。

2 原子力災害対策本部及びオフサイトセンター訓練（図上演習）

(1) 目的

関係自治体や防災関係機関の災害対策要員を対象に、オフサイトセンターの運用に関する知識・技術の習得・向上を図る。

(2) 内容

ア 原子力災害対策指針や原子力災害対策マニュアル等の研修及び機器操作実習

イ オフサイトセンター運営訓練（図上演習）

(3) 参加機関… <22> （参加人数 延べ162人）

経済産業省北海道経済産業局、国土交通省北海道開発局、環境省北海道地方環境事務所、海上保安庁第一管区海上保安本部、陸上自衛隊北部方面総監部、泊原子力規制事務所、北海道、北海道警察、泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、二セコ町、倶知安町、古平町、仁木町、余市町、羊蹄山ろく消防組合、北後志消防組合、北海道電力(株)

(4) 実施日

| 実施日 | 実施内容 | 参加人数 |
|-------------|----------------------|------|
| 平成29年11月21日 | 原子力災害対策指針等の研修、機器操作実習 | 81人 |
| 平成29年11月22日 | オフサイトセンター運営訓練（図上演習） | 81人 |

3 緊急時環境放射線モニタリング講習会

(1) 目的

道緊急時モニタリング班の要員を対象に、緊急時モニタリング活動を円滑に実施できるよう、知識の習得、技術の習熟、チームワークの形成を図る。

(2) 内容

- ア 要素別講習コース 緊急時モニタリングセンターの各班の業務及び資機材の取扱い等
- イ 総合講習コース 緊急時モニタリングセンターにおける総合的な緊急時モニタリング活動

(3) 参加機関… <15> (参加人数 延べ268人)

北海道、泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、二セコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村、北海道電力(株)

(4) 実施日

| 実施日 | 実施内容 | 参加人数 |
|---------------|----------|-------|
| ① 平成29年8月2日 | 要素別講習コース | ① 35人 |
| ② 平成29年8月4日 | | ② 33人 |
| ③ 平成29年10月18日 | | ③ 17人 |
| ④ 平成29年10月19日 | | ④ 26人 |
| ① 平成30年1月25日 | 総合講習コース | ① 25人 |
| ② 平成30年1月30日 | | ② 11人 |
| ② 平成30年1月31日 | | ③ 21人 |

4 原子力災害医療研修会

(1) 目的

地域の原子力災害医療の実効性を確保し、原子力災害医療に関する知識及び技術の習得・向上を図る。

(2) 内容

- ア 安定ヨウ素剤に係る基本的知識の習得と実践(演習)
- イ 避難圏域時検査・簡易除染に係る基本的知識の習得と実践(実習)

(3) 参加機関… <27> (参加人数 延べ78人)

国立病院機構北海道がんセンター、北海道社会事業協会小樽病院、社会福祉法人北海道社会事業協会岩内病院、砂川市立病院、小樽市立病院、旭川医科大学病院、苫小牧市立病院、JA北海道厚生連倶知安厚生病院、寿都町立寿都診療所、黒松内町国保くろまつないブナの森診療所、一般社団法人北海道薬剤師会、一般社団法人北海道放射線技師会、海上保安本部、札幌市消防局、北海道警察、陸上自衛隊、小樽市消防本部、積丹町役場、泊村役場、寿都町役場、古平町役場、余市町役場、二セコ町役場、仁木町、倶知安町、岩内町、北海道

(4) 実施日

| 実施日 | 実施内容 | 参加人数 |
|------------|--------------|------|
| 平成30年1月18日 | 安定ヨウ素剤の配布 | 41人 |
| 平成30年1月28日 | 避難圏域時検査・簡易除染 | 37人 |

5 その他研修

| 研修名 | 実施日 | 実施内容 | 対象者 | 参加人数 |
|-------------|--|--------------------|--|----------------------------------|
| 原子力防災基礎研修 | ①平成29年6月16日 ②平成29年7月20日 ③平成29年7月21日 | 放射線の基礎、資機材の取扱い等 | 防災業務関係者 | ① 58人 ② 53人 ③ 43人 |
| 原子力災害対策要員研修 | ①平成29年8月24日 ②平成29年9月8日 | 原子力防災業務に必要となる住民防護等 | 防災業務関係者 | ① 53人 ② 43人 |
| 放射線防護施設研修会 | 平成29年8月25日 | 放射線防護施設の運用等 | 施設関係者等 | 20人 |
| 民間事業者研修会 | ①平成29年10月23日 ②平成29年10月24日 ③平成29年11月6日 ④平成29年11月7日 | 放射線の基礎、資機材の取扱い等 | ①トラック事業者 ②建設業関係者 ③バス事業者 ④建設業関係者 | ① 14人 ② 20人 ③ 12人 ④ 24人 |